

女性船員の雇用に係る意識調査の 結果について(女子学生)

平成29年11月1日
海事局

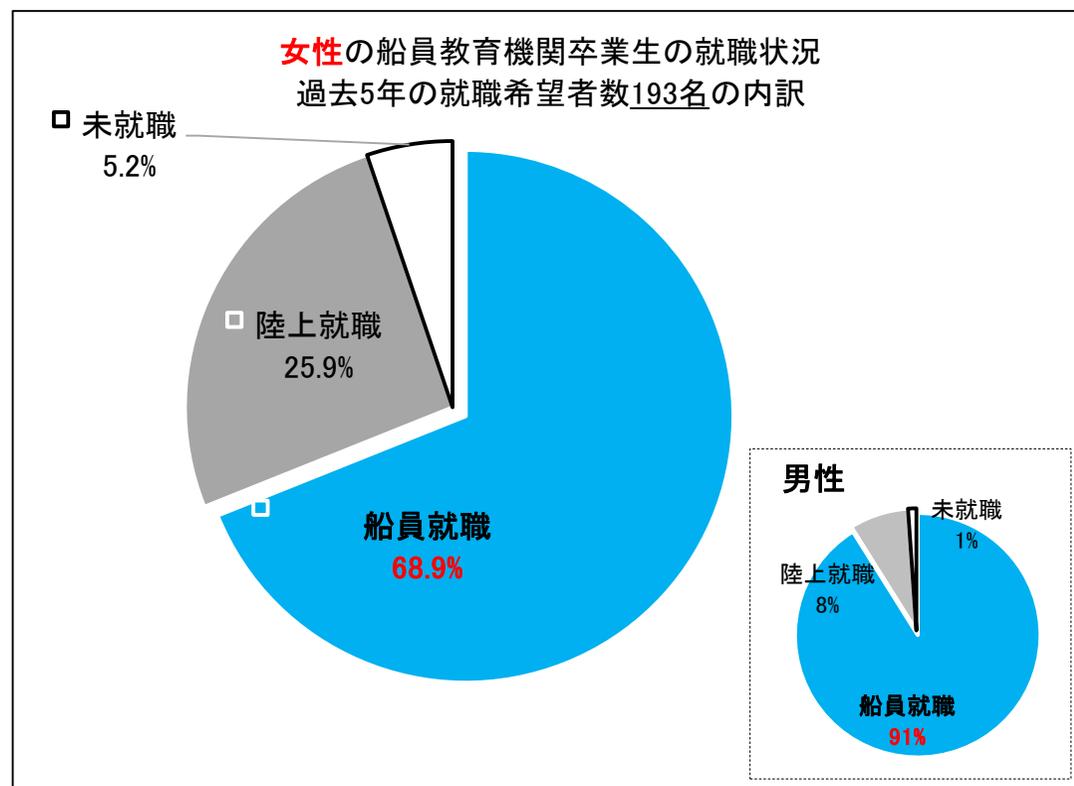
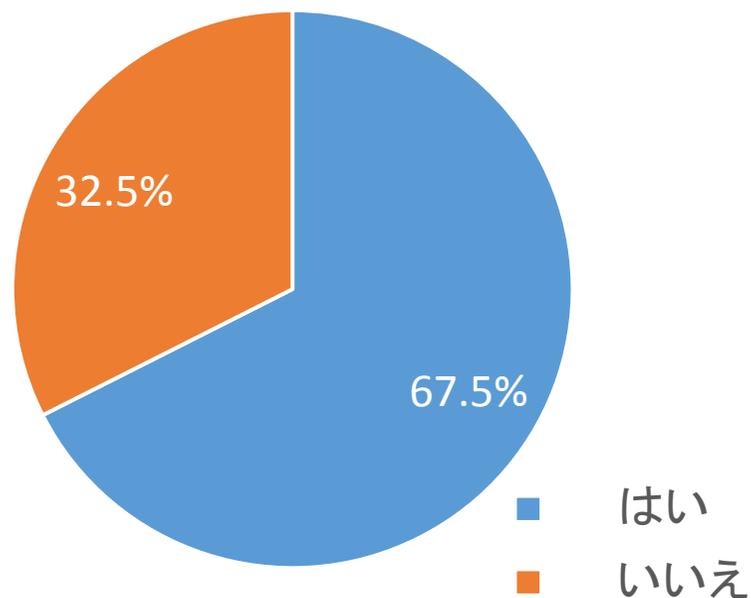
調査方法: 船員教育機関に在籍する女子学生(77人)を対象に、アンケート調査等を実施

1. 就職先として、船員を希望しますか。

→ 約7割が船員を希望

- 船員教育機関に在籍する女子学生の67.5%が、就職先として船員を希望。
- 女性の船員教育機関卒業生の就職状況(過去5年間の就職希望者の船員への就職実績)の68.9%に近い数値であり、学生の段階で船員を希望しない者が多いことが、女子学生の船員への就職率の低さに影響している。

【参考】

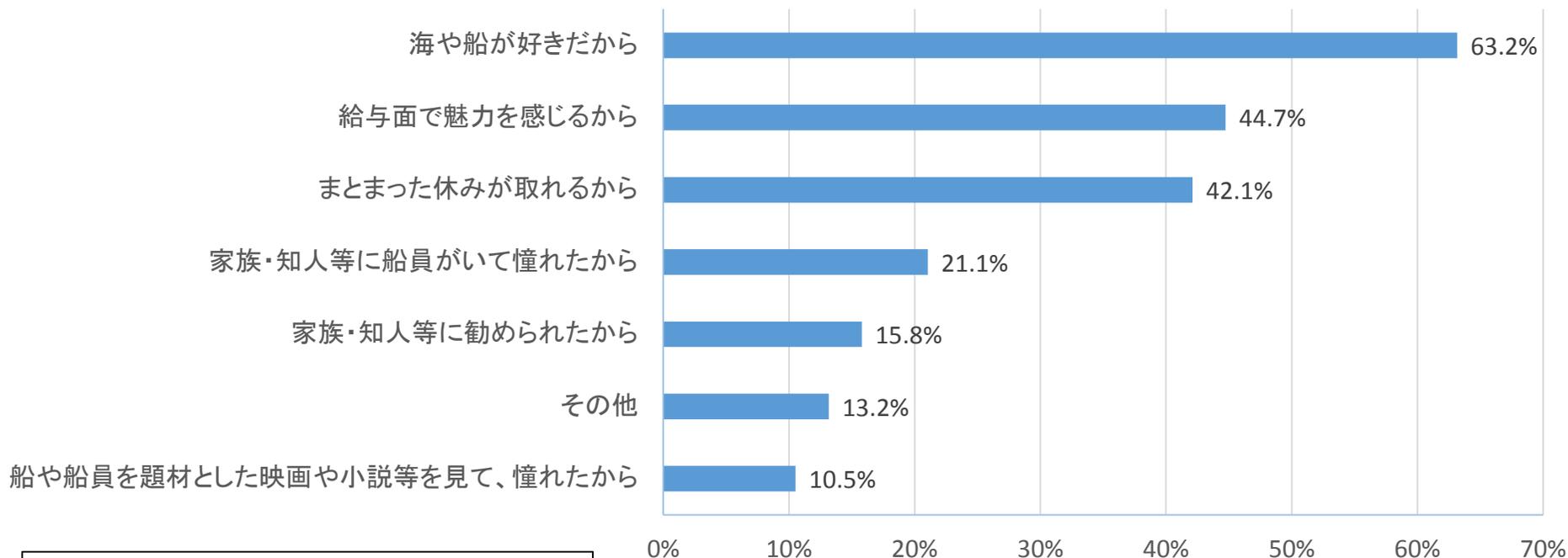


注 上記グラフは、第1回検討会資料を再掲したもの。 1

2. 船員への就職を希望する理由は何ですか。(船員を希望する者のみ回答。複数回答可)

→ 約6割が「海や船が好きだから」

- 船員への就職を希望する理由として、「海や船が好きだから」と回答した者が63.2%と最も多く、次いで「給与面で魅力を感じるから」と回答した者が44.7%であった。
- 「まとまった休みが取れるから」と回答した者も42.1%おり、船員の志望者には、船員独特の労働形態を好意的に捉えている者も多い。



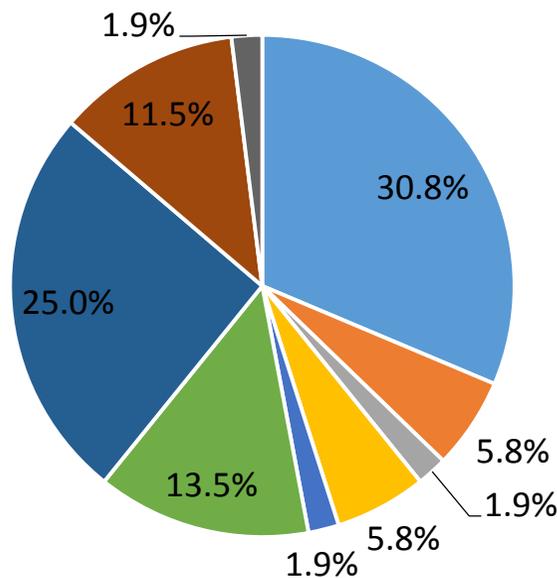
<「その他」の具体例>

- 商船系の大学に入学したから。
- 乗ってみていやじゃなかった。
- やりがいがある仕事だから。
- 乗船履歴が欲しいから。

3. いつまで船員として働くことを希望していますか。(船員を希望する者のみ回答)

→ 約6割が船員を長く続けたいと希望

- 「可能な限り長く」と回答した者が30.8%、「結婚・出産・育児等により、一時的に退職したり陸上勤務に就いたとしても、乗船可能な時期が来たら、再び船員として働きたい」と回答した者が25.0%となっており、船員を長く続けたいという意識を持つ者が多い。
- 「一定の履歴が付くまで」と回答した者も13.5%おり、水先人等への転職等、明確なキャリアパスのイメージを持つ者がいる一方で、「現時点では特に考えていない」と回答した者も11.5%いる。



- 可能な限り長く(定年まで等)
- 結婚するまで①(船社を退職し、船員も完全に辞める(復帰しない))
- 結婚するまで②(船員は完全に辞める(復帰しない)が、船社内で陸上勤務者として働き続けたい)
- 子供が生まれるまで①(船社を退職し、船員も完全に辞める(復帰しない))
- 子供が生まれるまで②(船員は完全に辞める(復帰しない)が、船社内で陸上勤務者として働き続けたい)
- 一定の経験・履歴が付くまで(経験・履歴を生かし、水先人等他の職業に転職したい)
- 結婚・出産・育児等により、一時的に退職したり陸上勤務に就いたとしても、乗船可能な時期が来たら、再び船員として働きたい
- 現時点では特に考えていない
- その他

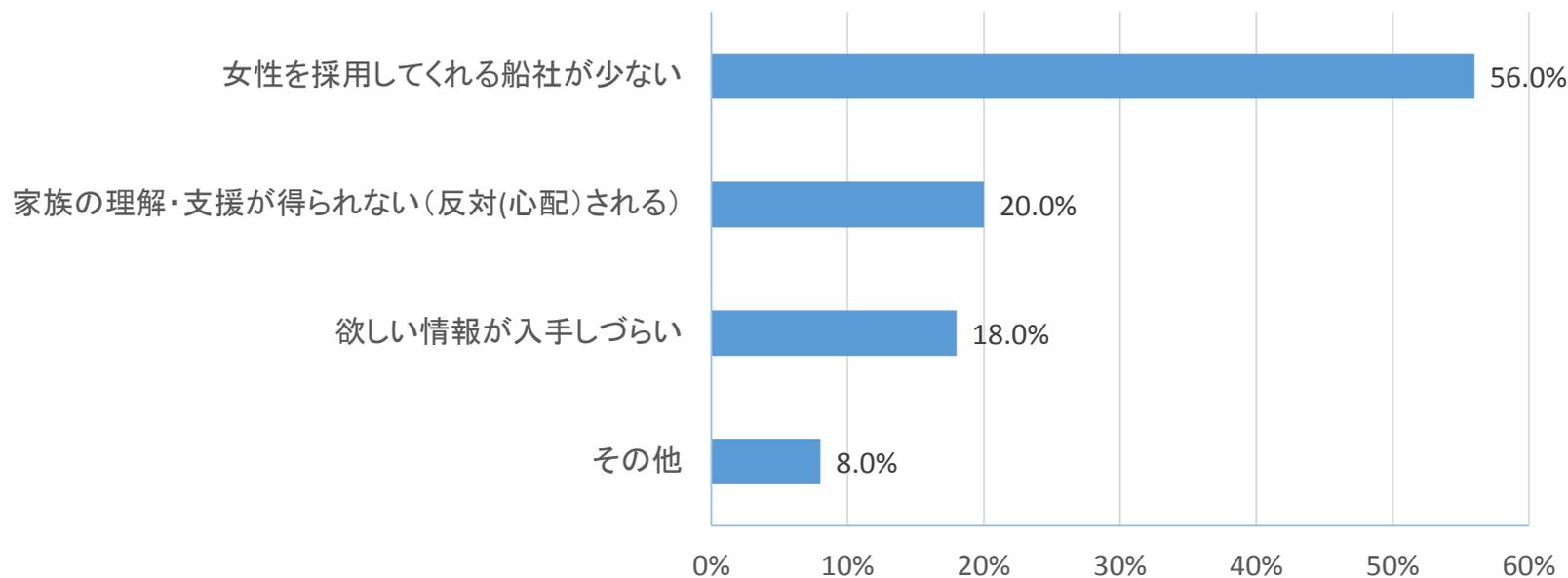
<「キャリアパスのイメージ」の例>

- 履歴を付けて、水先人になる。
- 外航船に乗った後、公務員になる。
- 外航船の女性船長になる。
- 客船の航海士になる。
- 船員として働き、時期が来れば結婚したい。仕事は続けたいと思うが、子供を産み育てるとすると陸にいたい。

4. 就職活動で困っている(困ると思いきうな)ことは何ですか。(船員を希望する者のみ回答。複数回答可)

→ 約6割が「女性を採用してくれる船社が少ない」ことを心配

○ 「女性を採用してくれる船社が少ない」と回答した者が56.0%と圧倒的に多く、男子学生とは異なり、就職活動の段階で困難に直面している状況。



<「欲しいと思う情報」の具体例>

- 女性の求人情報。(女性を採用してくれる企業)
- 女性船員の声。
- 産休・育休が取得できるのか。
- 希望すれば陸上勤務に就けるか。
- 設備が整っている会社か。

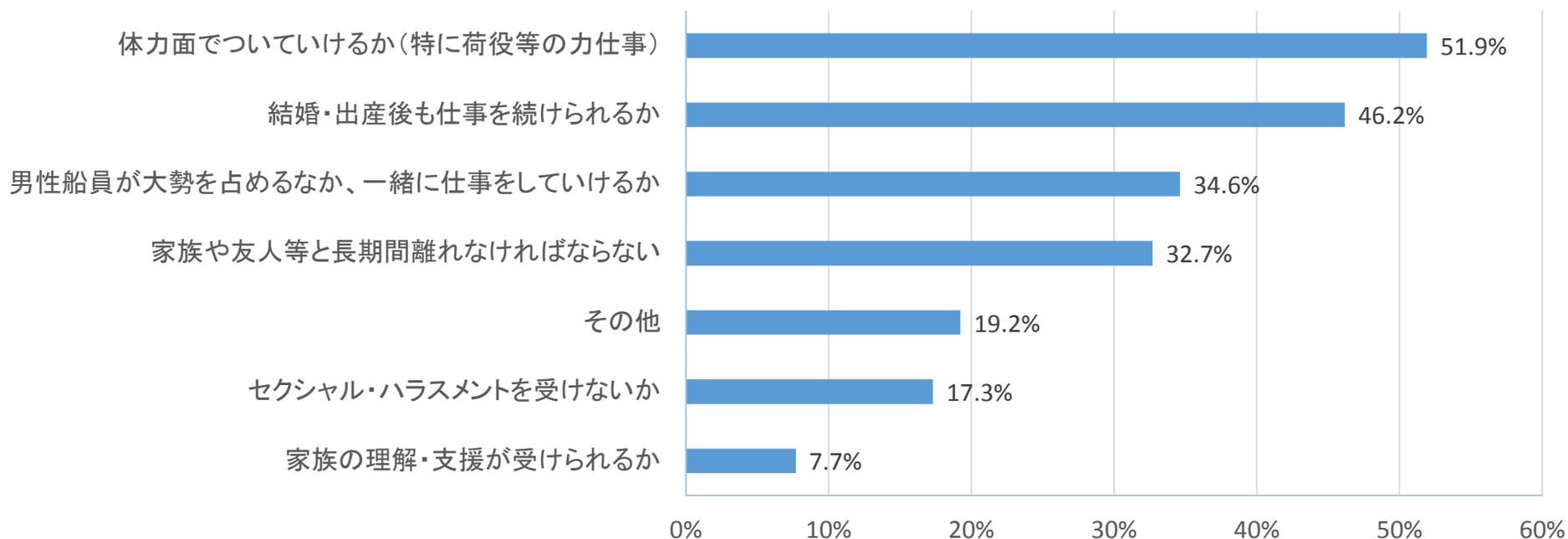
<「その他」の具体例>

- まだわからない。
- 職場環境。
- 自分がやっていけるかどうか。
- 英語が苦手。

5. 船員として仕事をしていく上で、大変そうだと思うところや心配なところは何ですか。 (船員を希望する者のみ回答。複数回答可)

→ 約半数が体力面を心配

○ 「体力面についていけるか(特に荷役等の力仕事)」と回答した者が51.9%と最も多く、次いで「結婚・出産後も仕事を続けられるか」と回答した者が46.2%であった。



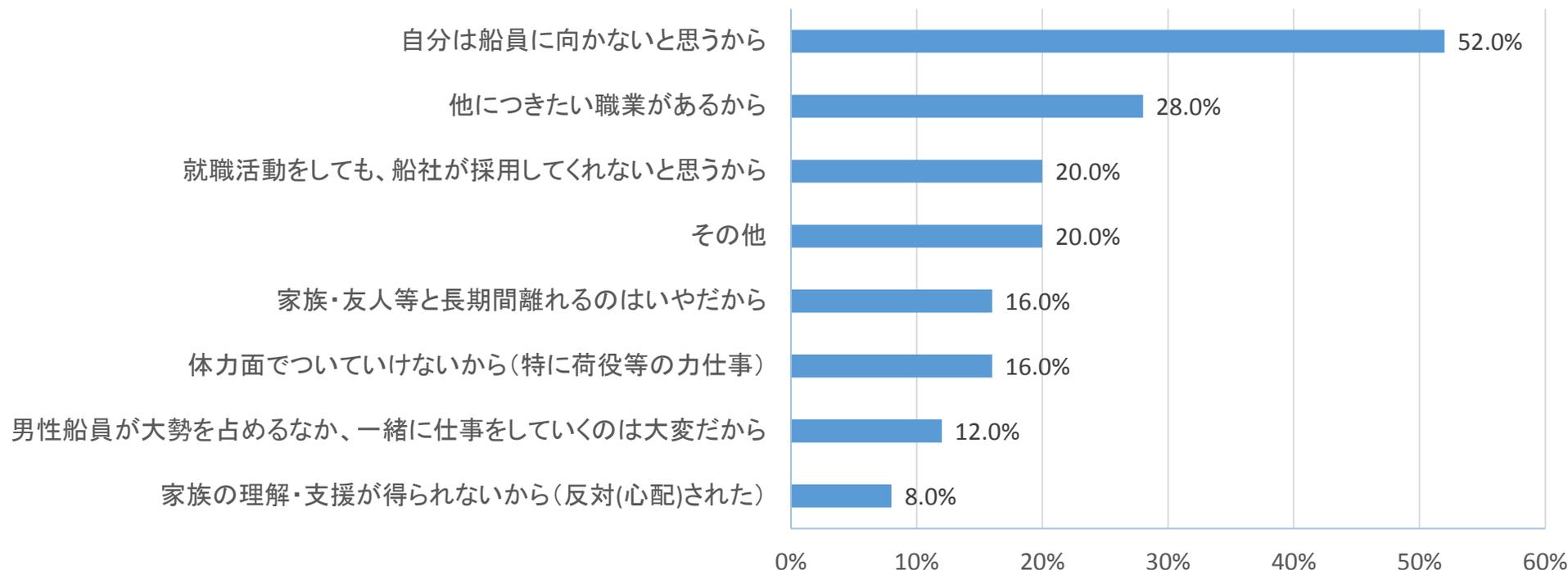
<「その他」の具体例>

- 家族にもしものことがあったら不安。
- なめられないか。
- 責任が重いところ。
- 常に働いているところ。
- 世事に疎くなる。

6. 船員への就職を希望しないのはなぜですか。(船員を希望しない者のみ回答。複数回答可)

→ 約半数が「自分は船員に向かない」

○ 「自分は船員に向かないと思うから」と回答した者が52.0%と圧倒的に多く、次いで「他に就きたい職業があるから」と回答した者が28.0%であった。



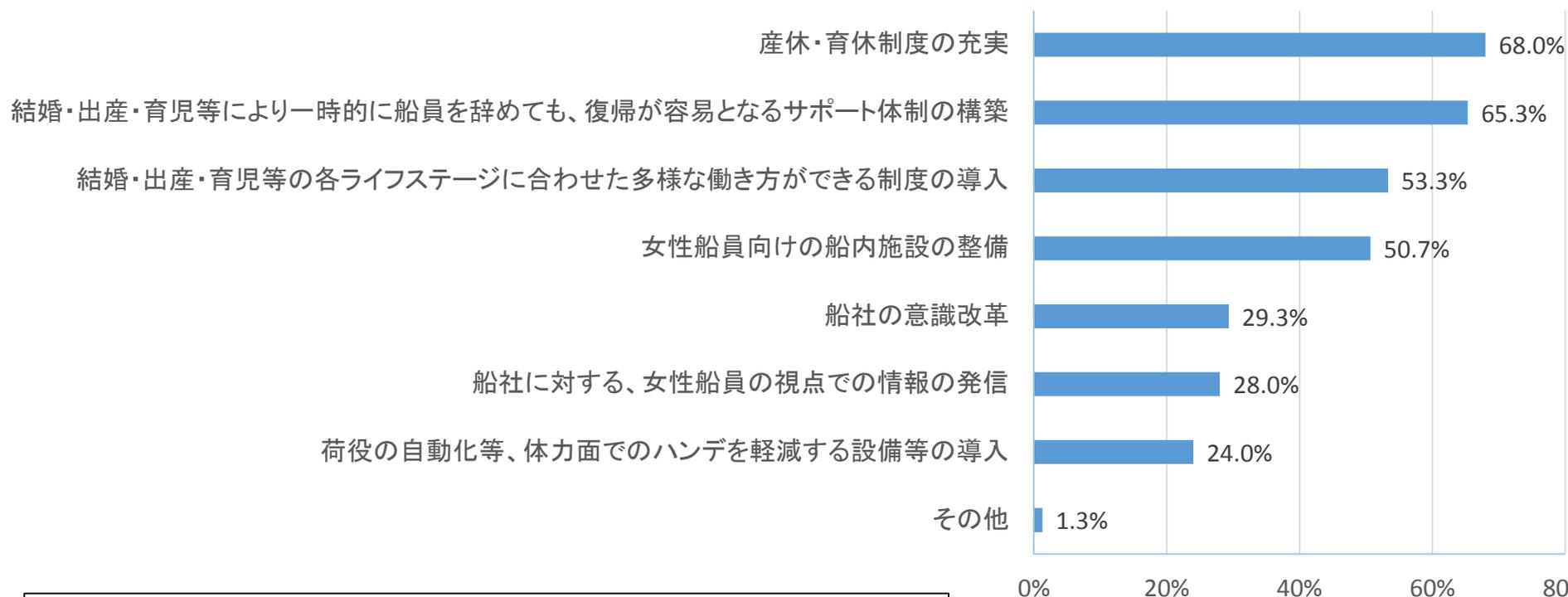
<「その他」の具体例>

- 船会社の採用に落ちた。
- 結婚・出産などで仕事を辞めたり休んだりしたくないから。
- 娯楽や趣味ができなさそう。
- 体が合わなさそう。

7. 女性が船員として就職し、働き続けられる環境を構築するために必要なものは何ですか。 (複数回答可)

→ ライフステージの変化に合わせた対応を求める回答が上位

- 「産休・育休制度の充実」と回答した者が68.0%と最も多く、次いで「結婚・出産・育児等により一時的に船員を辞めても、復職が容易となるサポート体制の充実(リハビリ訓練の充実や乗船期間の短縮等の配慮)」と回答した者が65.3%であった。
- 上位3位までの回答が、結婚・出産・育児等、女性ならではのライフステージの変化に対応した体制・制度の充実を求めるものとなっている。



<「その他」の具体例>

- 女性で船員になりたくないという人のマイナス意見をなくして欲しい。